PRESS RELEASE

報道関係者各位

2026 年 11 月 26 日
株式会社エムステージグループ

【医療機関の休復職実態調査】

復職者がいる医療機関の 94.5%で「1 年以内の再休職・退職」が発生

～背景に「感覚・自己申告頼み」の復職判断～

株式会社エムステージグループ（本社：東京都品川区、代表取締役：杉田雄二）は、全国の医療機関で休復職管理対応に携わる 257 名を対象に「医療機関における休復職対応の実態調査」を実施しました。医療現場における人手不足が深刻化する中、メンタルヘルス不調等による休復職への対応は喫緊の経営課題となっています。本調査の結果、復職者のいる 94.5%の医療機関で復職後 1 年以内の「再休職・退職」が発生しており、受け入れ部署の過半数が精神的・肉体的に疲弊するなど、周囲のスタッフを巻き込む連鎖退職のリスクを孕んでいることが示唆されました。



■調査結果のサマリー

◯復職後の定着に深刻な課題

・復職者がいる 94.5%の医療機関で、復職後 1 年以内の「再休職・退職」が発生

・再休職・退職の要因は「慣らし勤務不足（53.5%）」や、「現場における急な業務負担の増加（43.0%）」が上位に

◯判断基準の属人化と復職支援プログラムへの需要

・復職判断で客観データを用いる病院はわずか 4.8%

・現場の約 9 割が客観的な「復職支援プログラム」を求めている

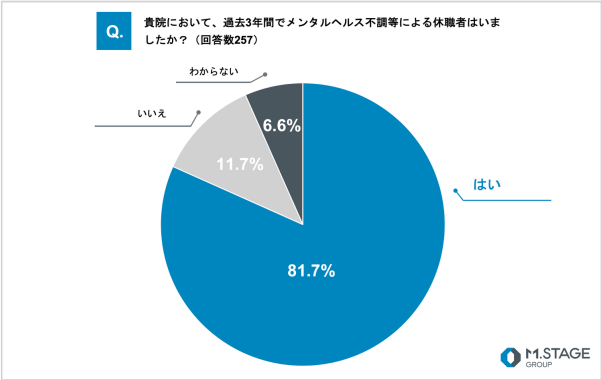
◯現場の二次被害と連鎖離職の懸念

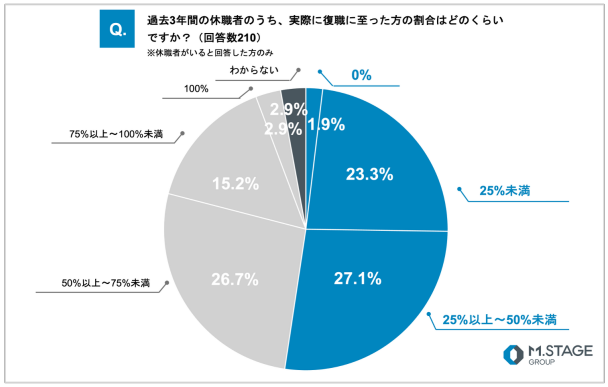
・受入部署の過半数（54.6%）が「精神的・肉体的に疲弊」し、さらなる離職のリスク

■復職者のいる 94.5%の医療機関で起こる「復職後 1 年以内の再休職・退職」と、連鎖退職の構造

①81.7%の医療機関で休職者が発生し、その半数以上が職場に戻れない実態

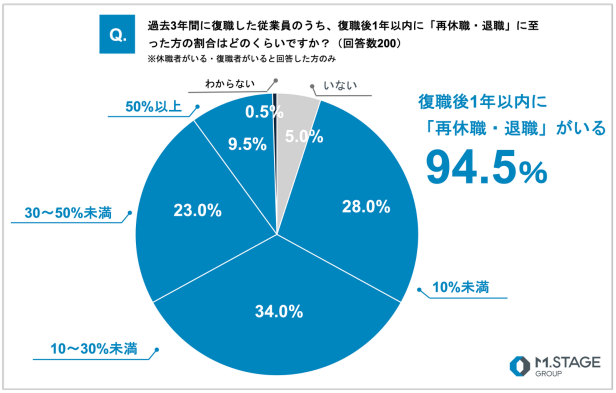
過去 3 年間でメンタルヘルス不調等による休職者が発生した医療機関は 81.7%に達しました。実際に復職に至った方の割合を聞いたところ、過半数にあたる 52.3%の医療機関で復職率が 50%未満という厳しい実態が判明しました。

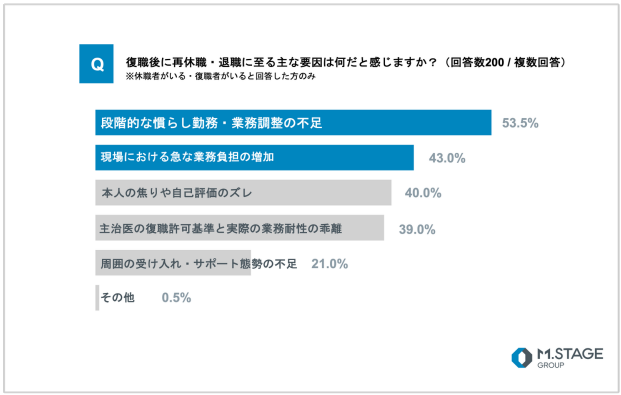




②94.5%の医療機関で復職後 1 年以内に再休職・退職、適切な復職判断に課題

復職後 1 年以内の状況について 94.5%の医療機関が「再休職・退職が発生した」と回答し、多くの医療機関が復職後の定着に課題を抱えている実態が浮き彫りになりました。再休職・退職に至る主な要因としては、「段階的な慣らし勤務・業務調整の不足（53.5%）」が最多となり、次いで「現場における急な業務負担の増加（43.0%）」が続きました。復職後の業務負荷コントロールが十分に行われないまま現場復帰が進められている現状がうかがえます。

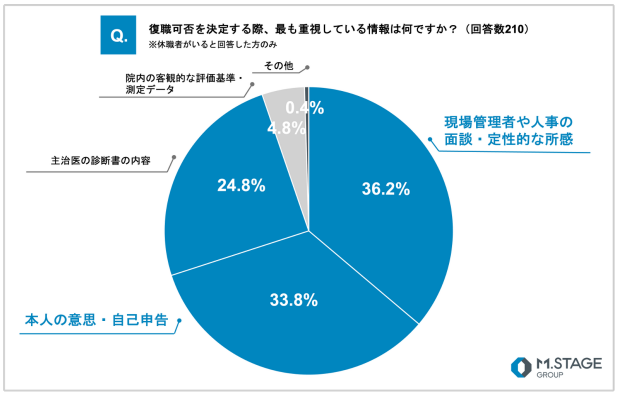


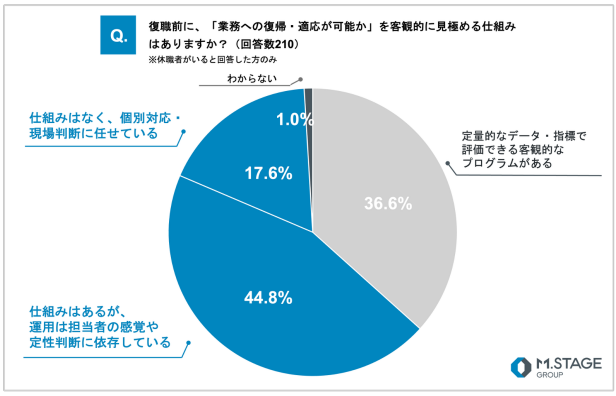


③復職判断は担当者の所感や本人の申告に依存、客観的データ活用はわずか 4.9%

復職可否を決定する際、最も重視している情報を尋ねたところ、「現場管理者や人事の面談・定性的な所感（36.2%）」が最多、次いで「本人の意思・自己申告（33.8%）」という結果に。対して「院内の客観的な評価基準・測定データ」を重視している医療機関はわずか 4.8%という事実が明らかになりました。

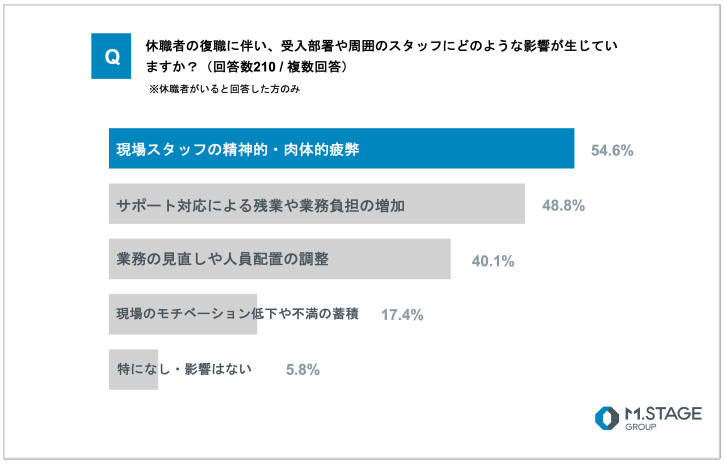
また、業務適応を客観的に見極める仕組みについては、「定量的なデータ・指標で評価できる客観的なプログラムがある」と回答した人はわずか 36.6%という結果になり、6 割超の医療機関が属人的、定性的な判断を行っていることが判明しました。





④不十分なサポート体制、受入部署の過半数が「精神的・肉体的に疲弊」

休職者の復職に伴い、受入部署や周囲のスタッフに生じている影響については、「現場スタッフの精神的・肉体的疲弊（54.6%）」が最多となり、「サポート対応による残業や業務負担の増加（48.8%）」が続きました。

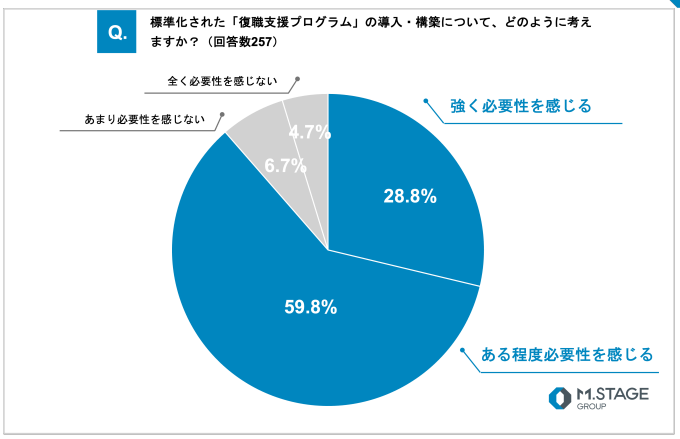


自由記述においても、尚早な復職判断やその場しのぎのサポート体制が周囲の医療従事者を疲弊させている切実な状況が寄せられました。

> Q. 休職者の復職に伴う、受入部署や周囲のスタッフの状況を具体的に教えてください。
>
> ・看護師のメンタル不調が多い。現場の人数はギリギリで回しており、サポート体制は取っているのだが絵に描いた餅のようなもので、サポートになっていない。（現場管理者）
> ・復職しても退職や再休職してしまうスタッフが多く、スタッフの入れ替わりも激しいため、職場環境が常に落ち着かない。他スタッフの疲労が常にたまり精神的に困憊している。（人事・総務）
> ・「当事者の負担軽減のために他スタッフの業務が増えてしまう。院全体での共通理解と仕組みが必要。（人事・総務）
> ・現場の心身的負担が増している。（医師・勤務医）
> ・臨時に対応できる人材がやや少ない。（医師・勤務医）
> ・休職者1人のために人員の配置やシフト変更など他のスタッフにも負担がかかる。（人事・総務）

⑤現場の約 9 割が「客観的な復職支援プログラム」を渇望

「標準化された復職支援プログラム」の導入・構築については、「強く必要性を感じる（28.8%）」、「ある程度必要性を感じる（59.8%）」を合わせ、約 9 割の医療機関が必要性を訴えました。
現場の感覚だけに頼る対応に限界を感じ、「客観的な復職支援プログラム」を渇望している医療機関が多いことがわかります。



■医療機関が抱える「休復職の悪循環」を断ち切るために

本調査により、休復職判断が現場の感覚や本人の意思に委ねられており、客観的な業務耐性を測定する標準化された仕組みが不足している実態が明らかになりました。その結果、復職者のいる医療機関の 94.5%という極めて高い確率で復職後 1 年の再休職・退職が生じ、受け入れ部署や周囲の医療従事者の疲弊や業務負担増を招いています。これらは連鎖退職を引き起こすリスクがあり、病床稼働や医療安全の確保にまで悪影響を及ぼす経営リスクを孕んでいます。

医療機関が持続可能な医療提供体制を維持するために、現場の感覚や主治医の診断書だけに頼る従来のブラックボックス化した判断プロセスから脱却し、定量的かつ客観的なデータに基づいて業務適応を見極める「標準化された復職支援プログラム」の整備が必要なのではないでしょうか。

＜アンケート調査概要＞

・医療機関における休復職対応の実態調査
・調査対象：全国の医療機関（病院・診療所）に勤務し、休復職管理・対応に関わる方
・調査期間：2026 年 10 月 30 日～11 月 4 日
・調査方法：サクリサ（https://www.prizma-link.com/sakurisa）
・有効回答数：257

※引用・転載時には「株式会社エムステージグループ」とクレジットを明記下さい。

株式会社エムステージグループ

「すべては、持続可能な医療の未来をつくるために」をパーパスに、健康経営支援事業、医療人材総合サービス事業、医療経営支援事業を行う、エムステージグループ企業の経営管理・運営を担う純粋持株会社です。
各医療機関の状況に応じた最適な施策を「採用」「予防」「対処」の 3 フェーズで提供する、伴走型ソリューション「アシタバプロジェクト」を展開しています。
「アシタバプロジェクト」サービスサイト：https://sangyohokensupport.jp/ashitaba/
「アシタバプロジェクト」ブランドムービー：https://youtu.be/H3pCOHfbX2w

＜会社概要＞

商号　　：株式会社エムステージグループ　https://mstage-group.jp/
代表者　：代表取締役　杉田 雄二
設立　　：2019 年 10 月
所在地　：〒141－6005　東京都品川区大崎 2-1-1　ThinkPark Tower 5 階
事業内容：持株会社、グループ全体の経営方針策定及び経営管理

〈本件に関するお問い合わせ先〉

株式会社エムステージグループ コーポレート広報（TEL: 03-6867-1170　MAIL: pr@mstage-corp.jp）